

◎評価シート（平成30年度）

記入日 H31年3月8日

平成30年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	本のリサイクル運営委員会 ( 釣船 廣子 )	事業担当課名 (記入者名)	図書館 ( 箆谷 早織 )
事業名	本のリサイクル関連事業		
事業開始年度	平成29年度～		
提案の区分	<input type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input checked="" type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

図書館が行っていた年3回のリサイクル事業を恒常的に行うための場所を確保し、その場を運営する組織を立ち上げること。市立図書館の除籍済み資料及び不要とする寄贈資料を最大限活用して、その収益を社会に還元すること。

(2) 事業費の負担額

団体	355,527 円
市	0 円
合計	355,527 円

(3) 実施した内容

毎週土曜日に除籍本等を販売する「リサイクルブック“つながり”」を創設し、本の販売をしている。H30年度は、2月末までに運営委員会10回、役員会3回、ディスプレイ作業回数10回。実績は、来館者4,862人、売上冊数7,243冊、収益322,550円となっている。図書館からは除籍本等8,817冊が“つながり”へ譲与された。  
 今年度の収益から社会還元の一環として公立の保育所・幼稚園に対して、書籍購入支援を実施。また、図書館の来年度の雑誌スポンサーとして3誌を追加し、合計6誌の年間購読料を負担することが決定している。ボランティアスタッフも随時、募集している。

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	③	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	③	2	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	③	2	1

相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	③	2	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	③	2	1

## (2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	③	2	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	③	2	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	③	2	1
予算は妥当だったか。	③	2	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	③	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	③	2	1
予定した成果は上がったか。	③	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	②	1

## (3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体にとって	図書館の雑誌スポンサー、公立の保育所・幼稚園への寄付など社会貢献ができた。
市にとって	図書館で不要となった本が活用され、その収益が公立保育所・幼稚園の書籍購入支援や市立図書館の雑誌購入に使われることで、市の読書活動が推進されている。
市民にとって	新しい人と人のつながりも生まれ市民交流が広がっている。

## (4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

現在のボランティアメンバーに高齢者が多く、今後継続していく上で、若年層の人を増やすことも課題である。また、開催日について、現在の土曜日のほかに平日に開催することで、利用者の増加が見込めることから、新規メンバーを募集し、市民の要望に応えられるようにしていく。
--

## (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案事業継続  提案事業以外）  休止または終了  
 市が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

阪南市の文化拠点サラダホール。その正面玄関左横にある“つながり”スペースが様々な市民団体に活用され、この市の元気印となり、「まちおこし」につながっていくことを願っている。